

東京大学と「スズキ・メソッド」の才能教育研究会 世界初、「脳科学的」音楽教育の共同研究を開始

東京大学大学院総合文化研究科とヴァイオリンなどの教育指導を展開する公益社団法人才能教育研究会は、音楽の習得や演奏評価に関係する脳メカニズムを特定するため共同研究を開始します。本研究は、演奏評価などに着目し、人間に固有の言語機能や美意識に関わる脳のメカニズムを解明することを目的としています。

赤ちゃんは、毎日繰り返し耳にする言葉を、いつの間にか話せるようになります。そのような「母語教育法」を規範にした演奏習得法が「スズキ・メソッド」です。言語や音楽の普遍性を科学的に明らかにするため、東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻の酒井邦嘉教授は、スズキ・メソッドによる教育法を展開する才能教育研究会と、世界初の共同研究を開始致します。

MRI（核磁気共鳴画像法）技術を用い、演奏評価等の判断傾向と相関する脳部位を手掛かりに、脳機能・構造のネットワークの変化を定量的に計測する研究を行います。才能教育研究会を通じて演奏活動に取り組む生徒たちの脳構造を比較し、演奏評価をしているときの脳機能を調べることで、才能や音楽経験に基づく個人差を調査できると考えています。

才能教育研究会の早野龍五会長は次のように述べています。「音楽を通して全人教育を、という鈴木鎮一先生の理念への共感は、この70年間に全世界に広がり、現在では約40万人のお子さんがスズキ・メソッドで学んでおられます。その貴重な歴史を守りながらも、今回、東京大学の酒井邦嘉教授と新たな共同研究に取り組めることを大変光栄に思います。」

また、本研究について酒井邦嘉教授は次のように述べています。「言語や音楽は脳を通じて心の働きが表現される、人間だけの能力です。私たちは、生涯にわたる言語や芸術の習得・経験の基盤となる脳のメカニズムを探求しています。今回、このような研究を才能教育研究会と共に進められることを大変嬉しく思います。」



東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部

東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部について

東京大学 大学院総合文化研究科は1983年の発足（教養学部は1949年発足）当初より、その教育・研究理念として学際性と国際性を掲げ、単に専門領域における研究者ばかりでなく、社会の実践的分野においても活躍する、高度の知見を備えた専門家を養成することを目標にしてきました。文系の専攻としては、言語情報科学、超域文化科学、地域文化研究、国際社会科学の4専攻があり、理系の専攻としては、広域科学専攻があります。広域科学専攻はさらに相関基礎科学系、生命環境科学系、広域システム科学系の3系に分かれ、これらが実質的な運営単位となっています。総合文化研究科では、このように文理横断的な研究・教育を発展・進化させながら、問題発見型・解決型の人材を数多く養成し、社会に送り出しています。

【東京大学 大学院総合文化研究科・教養学部 公式サイト】 <http://www.c.u-tokyo.ac.jp/>



公益社団法人
才能教育研究会

公益社団法人 才能教育研究会とスズキ・メソッドについて

鈴木鎮一が70年前に創始し、国内はもとより広く世界に普及している幼児からの音楽教育法です。ヴァイオリン、ピアノ、チェロ、フルートなどの楽器を通して、高い感性と美しい心を育み、集中力を養うという、音楽教育の域を超えた人間教育として注目を集めています。すべての子どもが自由自在に母語を話していることに着目し、「どの子も育つ、育て方ひとつ」「人は環境の子な

り」という理念にもとづいて、教育運動を続けています。現在、国内においては2～3歳から大人にいたるまでの1万人以上、また海外では世界46の国と地域で40万人にのぼる子どもたちが、スズキ・メソッドで学んでいます。

【公益社団法人才能教育研究会 公式サイト】<http://www.suzukimethod.or.jp/>

本件のお問い合わせについて

東京大学 大学院総合文化研究科

教授 酒井 邦嘉（さかいくによし）

Tel / Fax : 03-5454-6261

Mail : kuni@mind.c.u-tokyo.ac.jp

公益社団法人才能教育研究会

会長 早野 龍五（はやの りゅうご）

（東京大学大学院理学系研究科物理学専攻 教授）

Tel : 03-5841-4235

Mail : hayano@phys.s.u-tokyo.ac.jp